優れた地域活性化事例

観光業界の企業・団体と連携し、地域食材を活用した食の魅力を消費者に啓発することで、国産農林水産物の消費拡大につなげる「日本の食でおもてなし事業」。今年度は、優れた地域活性化事例として農林水産省が選定した「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」と連携した取組が進んでいる。

このほど今年度「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」27地区が決定したことから、今週号ではこのうち、観光の観点からも重要である「地域の食」をコンテンツにした2地区の地域活性化の取組事例を紹介する。

ディスカバー農山漁村（むら）の宝

ディスカバー農山漁村の宝 概要について

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」は、2014年度から実施しており、今年度で2回目。全国各地域が持つ魅力を「発掘」し、これらを地域活性化につなげている優良な事例を選定し、「横展開」を目指して全国に発信している。

初年度は23地区を選定し、ツーリズムEXPOジャパンなどのイベントへの出展、マスメディアによる発信などを通じて、各地域を広く紹介してきた。9月30日には、今年度の選定地区として27地区を決定・発表した。

ディスカバー農山漁村の宝 食と観光との連携について

各地区では、インバウンドや輸出、観光、食育、農業と福祉の連携など、地域の特徴を生かした魅力ある活動を行っている。

観光においては、地元の食は大きな楽しみの一つ。農林水産省では、13年度より、観光関連事業者らと連携して地域食材の活用を促進するとともに、旅行者にそれらの魅力を発信する取組「日本の食でおもてなし」を推進してきた。

一方、各地域の食文化や食材は、地域活性化の重要なコンテンツでもある。今年度の「日本の食でおもてなし」では、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とも連携し、地域の食の魅力を発信している。

新湊漁業協同組合（富山県射水市）

新湊漁業協同組合（富山県射水市）は、豊かな魚介類を次世代に引き継ぐため、魚食普及に力を入れるとともに、魚介類の地産地消や魚介類を通じた観光振興などで水産業のさらなる発展を目指している。

新湊漁港は、漁場が近く漁法も多いことから、朝・昼2回セリを行っている。昼セリは全国的にも珍しく、年々見学者が増加しているため、昨年度荷捌所を改築した際には、セリの円滑な進行、衛生面の観点から見学者用通路を外側に設置し、観光客や市民が気軽にセリを見学できるようにした。

また、子どもたちに地元の「食」の素晴らしさを知ってもらうため、市内の小学校では、児童1人につきベニズワイガニ1杯が配られる「カニ給食」を実施し、組合長自ら生徒にカニの食べ方を教えたり、地元の高校・短大で「魚のさばき方教室」を開催したりして、魚食普及や魚介類を身近なものにする取組を続けている。

魚介類に商品としての付加価値を付けた上で県内外への出荷につなげる取組も進む。若手組合員らが中心となり、マコガレイを数日間蓄養して「万葉かれい」としてブランド化したり、イワガキの養殖技術を研究したりするなどの取組を進めてきた。

毎年10月に開かれる「新湊カニかに海鮮白えびまつり」には、新鮮なカニや魚介類を求めて県内外から4万～5万人の観光客が訪れている。

同漁協の亀島史郎参事は「地道な取組を続けてきたことが今回の表彰につながったと皆喜んでいる。今後も取組を進めて地域や漁業の活性化につなげていきたい」と話している。

改築した魚市場

馬瀬地方自然公園づくり委員会（岐阜県下呂市）

馬瀬地方自然公園づくり委員会（岐阜県下呂市）は、旧馬瀬村全体を「自然公園」「ミュージアム」に見立て、地域住民と観光客の交流を進めてきた点が評価された。

観光と農林業の調和を重視したフランスの「地方自然公園制度」を学ぶため、村は1997年から5年間にわたり、村民17人らを1週間から10日間の日程でフランスに派遣。合併で下呂市になった後の2005年7月に、フランスの現地で学んだ村民や地方自然公園に対する関心が高い村民を中心に、県内外から観光客を集めて地域に元気をもたらそうと委員会が立ち上がった。

これまでも地元には馬瀬川のアユの釣り人や温泉浴ホテルの宿泊客が多く来てはいたが、「釣り」「温泉」という目的だけで住民との交流は少なかった。

そのため委員会では、夜間にかがり火やたいまつをたいてアユを網に追い込む伝統漁法「火ぶり漁」を観光客向けに公開。2年前からは、集落全体を歩いて、美しい里山風景や炭焼き小屋の様子など住民の暮らしを学ぶ「里山ミュージアム」の取組を進めてきた。

観光客対象の野菜の即売所

住民が地元の野菜を即売したり、意欲的にイベントに参加したりするようになり、観光客との交流も増えた。その結果、口コミで地域の取組を知った新たな観光客も増え続けている。

小池永司委員長は「20年かかってようやくここまでたどり着いた」とこれまでの成果を振り返るとともに「馬瀬地域には集落が10地区あるが、それぞれ高齢化率などに差がある。今後は集落ごとに対策を立ててそれぞれに合った活性化策を委員会で検討していきたい」と抱負を語る。

第2回選定地区一覧

絵本の里けんぶちVIVAマルシェ（北海道剣淵町）▽☆函館育ちふっくりんこ蔵部（北海道北斗市）農業生産法人株式会社グリーンファーム農家蔵（青森県平川市）▽☆遠野・住田ふるさと体験協議会（岩手県遠野市）▽一般社団法人ReRoots（宮城県仙台市）芳那の水晶湖ふれあいの郷協議会（栃木県市貝町）▽☆お菓子な郷推進協議会（埼玉県秩父市）▽平塚市漁業協同組合（神奈川県平塚市）▽西伊豆しおかつお研究会（静岡県西伊豆町）☆新湊漁業協同組合（富山県射水市）▽春蘭の里実行委員会（石川県能登町）▽NOTO高農園（石川県七尾市）▽殿下の里づくり組合（福井県福井市）▽農業生産法人有限会社かみなか農楽舎（福井県若狭町）☆馬瀬地方自然公園づくり委員会（岐阜県下呂市）▽相差海女文化運営協議会（三重県鳥羽市）せせらぎの郷（滋賀県野洲市）▽☆株式会社早和果樹園（和歌山県有田市）▽農業法人株式会社秋津野（和歌山県田辺市）美又湯気の里づくり委員会（島根県浜田市）▽北庄中央棚田天然米生産組合（岡山県久米南町）▽☆社会福祉法人E・G・F（山口県萩市）☆特定非営利活動法人美郷宝さがし探検隊（徳島県吉野川市）▽農事組合法人たどつオリーブ生産組合（香川県多度津町）小岱山薬草の会（熊本県玉名市）▽社会福祉法人白鳩会（鹿児島県南大隅町）▽☆やんぱる畑人プロジェクト（沖縄県名護市）

☆は全国の各ブロックで評価が最も高かった地区。詳しくは「ディスカバー農山漁村の宝」で検索。

【セミナー会場・日程】※東京は受付終了

札幌＝12月9日、TKP札幌ビジネスセンター赤レンガ前（はまなす）▽大阪＝11月24日、CIVIコンベンション北梅田・T・C（507）▽福岡＝11月26日、TKPガーデンシティ博多アネックス

第1部・基調講演（田崎真也氏）▽第2部・地域食材について▽第3部・事例紹介とパネルディスカッション▽第4部・名刺交換会

各日午後1時～同4時半。参加無料。申し込みは、日本の食でおもてなしデスク（JTBコーポレートセールス霞が関第一事業部内）☎03（6737）9273、またはomotenashi@bwt.jtb.jp